

文芸コーナー

短歌
茜さすささなみに利根照り映えて鴨の群れおよぐ雪富士とほく
庭の草とりつつをれば冬ごもりはじめし蛙驚きて出づ
ゆとりなく子ら育てしと悔ゆるわれ広場に孫とひすがら遊ぶ
雪白く輝く八ヶ岳を背に青空映る諏訪湖畔行く
いくばくの余生あるやは知らざれど仕事始めに鍬研ぎ磨く
師戸 渡辺 光雄

俳句

田口 三石選

街の灯を攫い北風翔けのぼる

大黒の膝に賽銭福寿草

引力に淡い影あり白つばき

粛々と乾通りの紅葉かな

大いなる宇宙の香り柚子湯かな

大森 山口 彩子
原山 大澤 弘子
大森 糸川とし子
舞姫 堤 貴美子
滝野 前田 恵

<短歌・俳句をお寄せください>

一人一首または一句で未発表のもの。毎月20日締め切り(必着)です。投稿は、住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、秘書広報課広報広聴班まで。

加藤恵美子選

田口 三石選

街の灯を攫い北風翔けのぼる

大黒の膝に賽銭福寿草

引力に淡い影あり白つばき

粛々と乾通りの紅葉かな

大いなる宇宙の香り柚子湯かな

滝野 前田 恵

ほっとレポート



広報レポーター:山田 一夫(木刈)

大型生ごみ処理機の実証実験
生ごみ減量化の取り組み

どこの街でも、ごみの減量と資源化リサイクルは大きな課題になっていきます。みなさんも、家庭から出る生ごみでストレスを感じたことがありませんか。ごみ捨ての面倒さ・集積所でのカラスや猫による被害、さらに夏場にはにおいの問題やハエなどに悩まされる人も多いと思います。
市では、生ごみ減量の取り組みとして家庭用生ごみ処理機などの補助金に加え、昨年4月から集合住宅に業務用の大型生ごみ処理機を設置し、居住者のみなさんが共同利用



実証実験中の大型生ごみ処理機
幅98cm×奥行52cm×高さ80cm

する実証実験を行っています。この実験には、小倉台の「千葉ニュータウントリアス管理組合」の協力の下、敷地内のごみ集積所2カ所に大型生ごみ処理機を設置し、家庭から排出される生ごみの減量・資源化を図りながら、その効果を検証しています。約60世帯でスタートした実

験も、現在は約70世帯が参加しているこの取り組み。今回、実験に参加された利用者によるその評判を聞いてきました。
これまでは、シンクの排水口などに溜まった生ごみの水を切り、ビニール袋などに入れ、ごみ収集日までの3〜4日間、台所に置いた生ごみ用ポリ容器やベランダに置いたポリバケツに格納していました。冬場はなんと我慢できませんが、夏場にはフタを開けるたびに臭ったり、小バエがよって来るのに頭を抱えていたそうです。
しかし、この生ごみ処理機を利用してからは、「調理後はいつでも捨てるので台所に生ごみを溜めな



臭いは抑制されています



使い方は簡単。ふたを開けて入れるだけ

私たちが、生ごみを良く水切りしたり、乾燥するなどしてごみの減量化に努めることが大切だと感じました。

い「済む」「燃やすごみが減り、青いごみ袋は週1回で済む」との声が届いており、その利便性を実感していました。一方で、利用していない人からは「生ごみの分別や集積所まで運ぶのが面倒」という声もあるようです。
今回の取材では、生ごみ処理機は確かに有効ですが、

大型生ごみ処理機の設置を検討したい、実験に興味がある集合住宅管理組合の人は見学も可能とのこと。ぜひ、組合の中で話し合ってみてはいかがでしょうか。
園クリーン推進課クリーン推進班(☎内線382)。

●おわびと訂正●

本紙1月15日号・6ページ掲載の「施設がいど」の記事にある消防組合の職員数の標記に誤りがありました。正しくは、248人ではなく、242人です。関係者のみなさまに、おわびして訂正します。

リサイクル情報広場

掲載情報は2月1日現在
園クリーン推進課クリーン推進班(☎内線383)

◆ゆずりませ情報

①犬の洋服②小林中学校女子制服(冬服、夏服、ジャージ)③本棚④ダイニングテーブル・いす4脚⑤シングルベッド⑥ダブルベッド⑦ソファ(2人用)⑧スキー板、ストック、スキー靴⑨ガラスケース入りわらべ人形⑩車いす。

◆さがしています情報

①補聴器②英(はなぶさ)幼稚園の制服・体操着③天神幼稚園男児制服、体操服④しおん幼稚園体操服(半袖)⑤木刈小学校体操服上下⑥木刈小学校ジャージ上⑦きかり幼稚園体操服長ズボン・半ズボン⑧高花小学校運動着⑨ジグザグ縫い機能付きミシン⑩ベビーベッド⑪ミシン⑫杵と臼⑬和装着付練習用ボディ(マネキン)。

※詳しくは市ホームページをご覧ください

施設がいど

JR小林駅

広報レポーター: 田中謙一郎(小林浅間)



主に小林・本埜地区の住民が東京などへの交通機関として利用しているJR成田線小林駅。現在、JR東日本と市



改修工事が進む新駅舎(写真は南口)

が共同で駅周辺の利便性の向上とバリアフリー化を進めており、完成に向け途上にあります。
駅は明治34年、成田鉄道として開業。国有鉄道を経て、民営化でJR東日本が継承し今日に至っています。

乗車客は平成6年度の1日平均3,230人をピークに昨年度は2,188人が利用しています。かつて、にぎわいを見せていた上野行き朝朝列車に乗り込む乗客は、年を追うごとに減少し、現在は数人とのことですが、駅のホームには、行商人が電車を待つ間、背負ったままの重い荷物をもちかきかき、当時のまま残っていました。
新駅舎は、小林地区の古き良き田園風景と住民の生活に調和した「牧歌的」な駅をコンセプトとし、長年親しんだ地上駅舎から、昨年11月に橋上駅舎に生まれ変わりました。

旧駅舎では、駅北側の利用者や南口改札を利用するの一度南側に渡る必要がありました。また自由通路には、北口、南口ともにエレベーターに加えエスカレーターも設置



車いす対応の自動改札機

ありましたが、新駅舎では橋の上で利用できるようなりました。車いすが通れるよう幅広く設置された自動改札があり、ホームには円塔状デザインのエレベーターが新たに設置されました。
また自由通路には、北口、南口ともにエレベーターに加えエスカレーターも設置